和光市環境づくり市民会議第１３９回定例会　議事要録

（平成２８年度環境施策評価に伴う市長・教育長との懇談会）

日　　時　平成３０年２月２日（金）１６：００～１７：００
場　　所　市役所６０３会議室
出 席 者　９名　峯岸正雄　芝勝治　髙橋絹世　髙橋勝緒　東亮太　友國洋　小林新
　　新井昭夫　松田廣行
　　松本市長、戸部教育長、中蔦市民環境部長
傍 聴 者　１名
事 務 局　和光市環境課　亀井課長、工藤課長補佐、工藤主査、金岡
次　　第
１　開会のあいさつ（峯岸会長）
２　市長、教育長あいさつ
３　平成２８年度環境施策実施状況に対する評価と提言について
　峯岸会長より、評価・提言について説明をいただく。
　平成２８年度の評価については、前年と同じような傾向を示しており、全体として概ね良好であることがうかがえる。施策体系の望ましい姿ごとにみると、望ましい姿１の豊かな水と緑を守り育み伝えるまちでは、目立った成果はなかったが、貴重な湧水地や斜面林の所有者との良好な関係を維持していただいており､高く評価している。緑地の保全については、環境団体と市との協力体制が構築されており、良好な維持管理体制ができている。
　望ましい姿２の安全で住み良い環境を未来につなぐまちでは、平成２９年３月に和光市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）【改訂版】が策定され、二酸化炭素の排出量を基準年度から平成３２年度までに２５％削減するというかなり積極的な目標を掲げている。今後はこの実現に向かって災害や農業、健康の問題など適応策も含めテーマを掲げ、項目を整理しながら鋭意頑張ってほしい。また、環境基本計画の施策の中には、地球温暖化対策の適応策が盛り込まれていないが、今後は環境課を中心に議論して我々が評価できるよう、この新しいテーマを環境施策に落として踏み込んでほしい。
　望ましい姿３の環境を育てる心がつながるまちでは、全般としてうまくいっていると思う。特に行政提案型協働事業で作成された「和光市自然環境マップ」は非常に立派な資料であり、あちこちで大いに活用されている。和光市の環境学習は進んでいると思うが、それに比べると一般市民への啓発活動は見劣りするので、せっかくよい資料ができたのだから、今後はこれを活用し一般市民へも和光市の素晴らしい環境について啓発活動を進めてほしい。
　最後に、評価を“概ね”適切とした理由を述べるが、本来は残すべき貴重な緑地が最近急激に失われつつあるという問題がある。我々会員としての一番の重要項目である緑地・湧水の保全について現状のままでいいのかという疑問を持っている。
　特に生産緑地の２０２２年問題というのがあるが、新たに２０２５年問題というの

が出てきている。現在の団塊世代の一番若い層が２０２５年には満７５歳の後期高齢者となり、それと密接な関係がある相続が多発する時代となる。これが緑地や湧水にどう影響するかというと、和光市は東京都練馬区に隣接しており、練馬区は日本の中でも２０２２年問題が大規模に現れるであろう場所と不動産業界ではいわれている。そのような場所がすぐ隣にあるので和光の土地所有者の中には、将来のことを考えるとできるだけ早く土地を処分しなければと考える人が出てくるのが流れだと思う。そうすると急いで対応策を取る必要があるので、それによって貴重な資産を売却するということにつながりかねない恐れがある。２０２２年問題、２０２５年問題というのではなく、こういう動きがこの数年の間にどんどん出てくると思うので、いろいろな対策を考えてほしいと強くお願いしたい。そういったことから、緑地と湧水の保全の問題もあるため、概ね適切と評価させていただいた。

４　平成２９年度環境基本計画推進調整委員会について

中蔦市民環境部長より報告。

平成２８年度施策実施状況に対する評価・提言を受け、今後の課題と方向性について共通認識を持ち、施策の計画的な推進を図るため、庁内職員で組織する「平成２９年度和光市環境基本計画推進調整委員会」での評価・提言のフィードバックと併せて、各課から事業の推進状況について、全庁的な情報の共有と必要な庁内調整を行えるような体制の整備に努め、各課とも十分に環境に配慮する考えであることを確認した。

施策の推進に当たっては、取組が着実に進んでいる施策が多くある中で、困難な課題が山積し取組があまり進んでいない施策もあるが、厳しい財政状況を踏まえ、国・県等のいろいろな制度の活用を図りながら、行政一丸となって取り組むので、引き続きご理解・ご協力をお願いしたい。

５　意見交換

各委員が順に意見を述べた。

【峯岸正雄会長】

緑地と湧水の保全について、新聞では生産緑地の問題や空き家の増加などの問題提起が書かれていたが、和光市を見ても斜面地のような簡単には宅地化しにくいところも今すごい勢いで宅地化されつつある。条件の悪い土地ほど処分を急ぐので、２０２２年問題なんて悠長なことは言っていられない。次々に貴重な緑地・斜面林がなくなってしまうのでぜひ対応してほしい。

【芝勝治委員】

和光市は緑が多いと言われているようだが、地図上でみると緑が非常に少ない。狭い市の中でいかに緑を保持していくかが問題で、どうしたらいいのか日々考えている。先日、講演で自然を保全するには学校での教育が重要であると聴いてきた。現場での自然教育に限らず普段の教科学習から自然環境に結びつけるのも手ではないかと聞いてなるほどなと思った。そういうことが和光市の学校でもできたらいいのではと思った。

【髙橋絹世委員】

施策の評価結果については、環境保全が市民の中に浸透してきて、かなり良好な環境になってきていることが表れていると思う。しかし、私たちが緑地の保全をしている中で、和光の宝のような素晴らしい緑地がなくなっているのを実感する。昨年からは特に素晴らしい緑地である漆台の斜面林、白子２丁目のカタクリの自生地、新倉小の斜面林が開発により樹木を伐採され、危機感がある。環境行政としては重要度の異なるいろいろな施策が並列されている中で、全体の評価としては良好ではあるけれど、緑地の保全はなかなか進んでいかない。自然環境を残すための核になるような緑地が無くなることでその一歩が進んでいかないのではという気がしている。

この前の議会の答弁でも緑地や湧水地の保全でトラスト制度の話が取り上げられていたが、トラスト制度には広い意味でのトラスト制度と和光独自のトラスト制度があるのではと思う。トラスト制度を作る前段階としての調査を市民会議なり環境課なりで考えていくべき時期に来ているのではないか。

【髙橋勝緒委員】

ここ数年で非常に重要な緑地が減っているというのが実感だ。先日大坂ふれあいの森の隣地が開発され、樹木が全て伐採されてしまった。現地で業者の話を聞いたのだが、土地を売るために樹木を全部切るのだと言っていた。そうしないと売りにくいそうだ。次に土地を買う人が立派な樹木をシンボルとして残す可能性もあったのに、そういうのも無視してとにかく全て伐採してしまうというのはとても残念である。それが一般的なやり方なのかは分からないが、同じ開発をするのでも何とか残すようにできないものか、条例なりいろいろな方法があると思うのでぜひ市の方で検討してほしい。個人の所有物なので仕方がないとは思っているが、将来的にそれが横行すると大変だという気がした。

もう一つは、それらを保全する方法としてトラスト制度や基金や国等の施策の利用など、それらを検討する専門の業務が必要だと考える。そのためにも調査費等の予算をつけてほしい。何とか工夫して残すという基盤を作るために力を入れられるような体制を整えてほしい。文化財として樹木を残すなども含めていろいろなやり方があると思う。

【東亮太委員】

公有地化をどう進めるかが課題になっている。高齢化に伴い空き地も増えてくる。そういった時期において、市民会議でも環境課が提示する議題や施策の評価だけでなく、トラスト制度風の資金を蓄える方法の模索など、なにか実働できないかといつも考えている。現実に必要なことだと思う。

また、越戸川の雨水幹線工事をやっているが、最終目的は温暖化でも問題になっている水のコントロールにあるのか。あれだけの容量があるのでどのような目的を持ってやっているのか知りたい。

【友國洋委員】

緑の基金を設置する条例を作ってもらいたい。朝霞等の都市ではある。基金設置のための調査を数年やってきたと思うが、そろそろ調査の結果を出してほしい。和光市

緑地保全計画には他市の状況や財源確保の方法、緑地保全の優先順位といったことがちゃんと書いてある。議会の答弁では今後検討しますと言っていたが、もはやそういうレベルではないというのが率直な感想だ。財源について言えば、都市計画税を上げた分、その半分は緑地保全に充てることを議会で決めてもらいたい。そうすることで全国に和光市は緑地保全に力を入れているということを発信できる。市長の発信力に期待したい。

【小林新委員】

環境問題については自然環境マップなどの活用が進んでいると思うが、例えば和光市のレンタサイクルのようなところでマップの案内をしてもらうとか、授業で活用するなど、よりこれを広めてもらい、より一層の利用があるといいなと思う。

最近住宅がどんどん増えてきているが、午王山遺跡なども近くまで家が迫っているので保護や公有地化など検討してほしい。また、北インター近くの土地開発も進んでいるが、企業を誘致するときは自然環境に易しい企業を入れてほしい。

【新井昭夫委員】

２０２５年問題に合わせて緑を増やす＝公園を増やす。そして高齢者と子どもたちがふれあうような場所を作ることで住みやすい和光にしてほしい。高齢化と合わせて環境問題を検討してはどうかと思う。

【松田委員】

山梨県北杜市という、富士の湧水が流れており、坂が多くて和光市に少し似ているところがある。１５年くらい前だが、自然エネルギーを大切にしたいということで子どもたちが公園の中に流れを作って水車を設置し、水力発電をしたことがあった。そのときに、太陽光とどちらが安いですかと聞いたら、材料費を考えれば水力発電のほうが安いよということだったので、和光市でも越戸川や白子川で落差があるところに小規模の水力発電設備を作って公園などの明かりに使えば自然エネルギーの活用につながるのではないか。和光市も急斜面がたくさんあり、水は無料なので有効に利用して子どもたちに自然エネルギーについて教えてほしい。高齢者の中にはかつて水力の利用をしていた人たちがいたので、そういう人たちに手伝ってもらって水力発電を作ればいいのかなと思う。

【松本市長】

まず、トラスト基金の話では、何らかの形で基金を持ってお金を集める方法についてその進め方を検討してきた。特に相続問題は突然起こることなので、まずは一定のファンドを持ってその辺を手当てできるよう担当と一緒にしっかり結論を出していければと思う。

都市計画税に関してはいわゆる目的税で、都市計画事業に使うことになっており、直接緑地保全に充てるのは難しいが、都市計画税でやるべきことに一般財源からかなり多額のお金を投入してしまっているのでその流れが変わる。一般財源が浮いた分で何らかの手当てができるのではないかと思っている。いくつか具体的な緑地案件で検討しているところがあるので、今は基金というよりも喫緊に対応を検討して

いる緑地について何らかの結論を出していきたい。

昨今、特に新倉小の南斜面もそうだが、樹木が伐採されて非常に残念な姿になっている状況を把握している。開発するときに一定割合の緑化をしなさいという規制はあるが、一旦伐採するということに関しては規制がないのでそこが非常にもったいないというご指摘だと思うが、規制をもって残すというところまでは私としてもなかなか身を乗り出せていないところである。今後そういう事例を担当とも調べながらいい方法がないか考えていきたいと思う。

環境教育の関係でマップの活用であるとかサイトの発信ということで、せっかくいい物を作って、それをもとに学校でもかなり活用しているようなので、今後は活用事例の発信についても広げる努力をして環境教育を推進できればと思う。

雨水の幹線工事の件だが、平成２６年の集中豪雨の際は、最終のはけ口での水の滞りが上流を水浸しにしてしまった。そのことを反省し、その上流については徐々に補助管を入れたり、側溝を整備したり、いろいろな形で整備してきているが、現在は、最後の越戸川に水を落とす部分を中心にどのぐらいの水が捌ければいいのかを計算した上で施設を埋めているという状況である。実はそれが最終的な解決に結びつくものではなく、一番の課題は新河岸川の本線の整備をいかに前倒しでやるかということである。昨年の１０月くらいから小規模河川等の集中的な対応をするということで国交相で予算化をしているが、それを活用することで今の我々だと十数年かかるペースのものを数年単位で短縮してやろうと検討している。これと合わせて進めていけば越戸川の雨水幹線工事に安全性が増し、財政効果も出てくるかなと思う。

小水力の件だが、私も小水力は大好きで、何度か現場で検討してもらったことがある。しかし、和光の場合は安定した水量が足りないということでなかなか採算に乗るような形というのは難しいということが現状である。小型化が進んでいるのでなんとか一箇所でもいいからやりたいという気持ちはあるが、どのようなものができるか今後も引き続き検討したい。

【戸部教育長】

自然を大事にするという意識を培うことは学校の環境教育の中でも十分できることだと思うので、現在でもマップ等を活用して学校では努力しているが今後も取り組んでいきたい。

医院跡の斜面林の話も行政としては手を出しにくいというところで歯がゆい部分があるが、市長の話でもあったように今後何らかの手立てができればいいなと思う。

教育委員会として生涯学習の方では熊野神社や氷川神社の富士塚を何とかしていこうと思っている。神社の中にあるものなので半永久的になくならないとは思うが、ああいうものは後世に向けてきちんと残さなければいけないので、今、文化財として指定して残せるように検討している。午王山遺跡の件でも指摘されたように、あっという間に家が建ってきている。地主さんがいることなので、いつ相続が発生するかは誰にもわからないところがネックだが、再度見直しして最低限残す範囲を検討している。

自然エネルギーに関する学校教育の話では、昔は和光にも水車があったが、水車すら今の子どもたちは見ることができない。水車も自然エネルギーの一つだと思うのでどのように授業の中で取り入れられるか工夫したい。

子どもたちは環境マップを使って環境学習をしているが、保護者や一般市民の関心が薄いのではないかということだが、確かにそうだと思うので、生涯学習の公民館講座等でもそういうものはやっているが、見直してより多くの機会を提供できるように考えていきたいと思う。

6　閉会

次回の会議は３月２０日(火)１５時から６０２会議室で開催する。